

心臓血管外科術後患者におけるせん妄の予測と予防の取り組み

集中治療部・ICU

○ 松岡 美帆 壬生 季代 谷脇 えみ 壬生 真貴
川崎 一起 高橋 由美

【はじめに】

心臓血管手術を受ける患者は、不安や緊張、精神的・身体的苦痛からせん妄を発症しやすい。そこで、心臓血管術後患者のせん妄予測におけるJ-NCSの有効性を明らかにし、ストレス緩和や睡眠導入に効果がある音楽療法に重点を置き、予防効果を検討したので報告する。

【方法】

心臓血管外科術後にICUへ入室した患者（38例、男性26例、女性12例）を対象とし、入室前情報、バイタルサイン、J-NCS、BIS値、SAS・OAAS・ラムゼイスコアを用い、SAS3を基準にしたせん妄の発生との関連を検討した。また、19例で音楽療法を施行し、せん妄の発症率を施行しない群と対比検討した。

【結果】

38例中11例がせん妄をおこし、せん妄群は非せん妄群に比し挿管時間が有意に長く、J-NCSは有意に小であった。また、脳疾患の既往の有無によって有意差がみられた。音楽療法をした群はしなかった群に比し、せん妄の発生は有意に低かった。

【結語】

J-NCSは術後ICUでのせん妄の予測に有用であり、脳疾患の既往、術中からの挿管時間はせん妄のリスクになりうる。また、術後ICUでの音楽療法はせん妄の予防に有用である。

〔平成18年3月2～4日 第33回 日本集中治療学会（大阪）にて口頭発表〕